

中学校教科等研修講座(道徳)

教科等指導員 南中学校 教諭 甲斐 公美子

担当指導主事：向井 敬子

キーワード：小中連携 道徳の教科化 評価

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題(またはテーマ)
10月16日(金)	大阪教育大学 教育学部 教授 金光 靖樹 氏	南小学校 教室・なかよしルーム 授業研究(小中 TT) 研修会 指導助言	題材「どうしてルールやきまりはあるのか(兵庫版道徳副読本「心ときめく」)(第6学年)」 「規範意識を高める小中連携道徳授業の実践」

2 主な内容

(1) 授業研究「どうしてルールやきまりがあるのか？(第6学年)」

本年度、南中学校区は、「小中連携」による児童生徒の発達段階に応じたこころの教育を推進し、よりよい集団の基礎となるルールやマナーに対する意識を高めるということに焦点を当てて取り組んだ。ルールやマナーを守ることの心地よさを感じ、価値観として根づかせ、さらには児童が卒業後、中学校での生活にうまく順応できるよう、小中の教師が情報共有し、コミュニケーションを図るなど、風通しの良い関係を築いていくことが大切であると考えた。



そこで、内容項目「規範意識の尊重」を考える資料として、兵庫版道徳副読本のメッセージ『どうしてルールやきまりがあるのか？』を使用し、小中が連携したチームティーチングによる道徳の授業を実施した。

① 協働的な教材研究

中学生になり、学習・生活環境の変化による不適応を起こさないよう、小学校、中学校の教師が協同して教材の開発・研究を行った。そうすることで、内容の質を高めることにつながった。

② 児童の反応

実際に中学校の教師と対話することで、児童は中学校を身近なものとして捉えることができ、「ルールやきまりはこれから中学校で楽しく生活するためにあるのだとわかった」という前向きな感想が聞かれた。

(2) 講演「規範意識を高める小中連携道徳授業の実践」

① 指導助言

講師に、大阪教育大学教育学部 金光靖樹教授を招聘した。授業を行う上で、児童の反応の予測をしてはいたが、それはあくまでも指導上の予想に過ぎない。予測しない児童のつぶやきや考えもきちんと拾い上げ、その時の児童の思いを大切にして授業を作り上げなければならぬと、具体的な指導をいただいた。

② 道徳の教科化

道徳は平成30・31年の教科化にむけて、重要な時期にさしかかっている。金光教授の講演から、「評価」をおこなうためには、道徳の授業がきちんとできなければならないことを学んだ。

3 成果と課題

(1) 成果

一人の子どもの成長を考えたとき、小学校から中学校の学校間の移行には連続性がある。発達段階に応じた一貫性のある道德教育を推進するには、学校種間の円滑な連携・接続を図ることが重要であると気づくことができた。

(2) 課題

人間が本来持っている、人間としてよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成をめざすために、発達段階や校区などの実態をふまえ、小中連携による創意工夫をいかした道德教育を推進していく必要がある。